

2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書			2024/9/30	
団体名	NPO法人 オオタカ保護基金	活動タイトル	サシバの里のファンを増やそうー五感で楽しむ大人向け里山自然体験ー	
活動対象地域における生物多様性の保全に関する現状と課題			■ 活動風景	
栃木県市貝町には豊かな里山が広がっており、里山の指標種で絶滅危惧種のタカ・サシバの有数の繁殖地となっており、環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」にも指定されている。しかし近年、人口や農家の減少、高齢化等に伴う耕作放棄地の増加等によって里山の生物多様性の劣化が目立ち、サシバの生息数も減少している。そこに人が住み、農業が営まれることが生物多様性豊かな里山を維持することにつながる。今後サシバが生息する豊かな里山と誇れる地域をどうやって未来に繋げていくかが、地域の課題となっている。 そこで同町では、「サシバの里づくり基本構想・実施計画」を策定し、その地域資源を生かして人と自然が共生する「サシバの里」づくりを開始した。そのコンセプトは「サシバが舞う里地里山を基盤に環境と経済を好循環させることで、まちを次の世代につなぐ」である その施策の中に「自然体験や農業体験事業の普及・展開」や「魅力に感じる日常体験を通じた関係人口の創出」がある。これらを通じて市貝町のファンを増やし、ひいては移住にも結びつけるというものであり、この方針に基づいて町や観光協会、民間団体などで観光客や来訪者を対象とした自然体験や農業体験などのイベントが開催されている。しかし、これらの多くは子ども向けが多く、大人を対象にしたものは少ない。加えて、コロナ禍によって中断されてしまったものも多く、今後どのように回復して行くかが課題となっている。 一方で、ストレスの多い現代社会では、特に都市部で生活する人にとって、自然は安らぎや癒しの場となっており、自然志向が高まりつつある。そこで今回、交流人口や関係人口の増加を目指し、大人を対象にした安らぎや癒しと連動した「五感で楽しむ大人向けの里山自然体験」を企画し、開催する。この活動を通じて、市貝町や里山のファンを増やし、環境と経済が好循環し、里山やサシバと人が共存する地域を目指す。			里山で採集したアスナロをアロマオイルを作るために蒸留機に入れる（11月4日里山の香りワークショップ） 	
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)	
大人向けの五感を使った自然体験を3回開催した（大人のみ対象1回、家族含む大人対象2回）。 （1）里山の香りワークショップ：2023年11月4日、参加者10人。 午前中は、香りのある植物・樹木を求めて里山を散策し、採集したアスナロの葉を蒸留して、アロマオイルとアロマウォーターを作った。午後は、各自でオイルとクリームベースとなる脂を選び、湯煎して調合。オリジナルの里山の香りクリームを作った。 （2）里山リースづくりワークショップ：2023年11月23日、参加者14人。 午前中は、里山を歩いて木に絡むツルを切る作業をしながら、リースの材料探し。午後は、集めたツルを編んで輪を作り、緑の木の葉や木の実、松ぼっくりなどで飾り付け、オリジナルのリースを作った。 （3）里山の恵みをいただくワークショップ：2024年4月20日、参加者16人 午前中は、野鳥の声を聞きながら、田んぼで食べられる野草探し。お昼は採集したコシアブラなどの芽を天ぷらにして食べた。午後はサンショウの味噌作りとカキドオシの野草茶づくり。春の味を存分に感じる事ができた。			里山の香りワークショップ（11月4日実施、回答数10）と里山の恵みをいただくワークショップ（4月20日実施、回答数5）において、ワークショップ参加前後での気持ちの変化をアンケートで尋ねた。質問項目は、A里山への関心、B市貝町への関心、C道の駅「サシバの里いちかい」での購買意欲、Dサシバの里自然学校への関心、E同校で開催される体験活動への参加意欲、F同校で開催される里山管理活動への参加意欲の6点であり、気持ちの変化レベルは1大きく下がった、2少し下がった、3変わらない、4少し上がった、5大きく上がったの5段階とした。 その結果、11月4日では変化レベルの平均はA4.6、B4.7、C4.3、D4.7、E4.5、F4.7で、C道の駅での購買意欲を除いて、4.5以上であった。4月20日についても、A5.0、B5.0、C4.2、D5.0、E4.8、F4.6で、こちらもC道の駅での購買意欲を除いて、4.5以上であった。 達成目標として、「市貝町や里山への関心度、町の物産の購入意欲、里山整備意欲が2段階高まる」ことを目標としていたが、アンケート結果から、町の物産の購入意欲を除いて、ほぼ達成できたと考える。	
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題	
水蒸気蒸留器を購入することができ、専門家の指導の下、アロマオイルやアロマウォーター製造のノウハウを得ることができた。特に、今回の専門家は、アロマづくりにとどまらず、植物、野生動物全般に詳しい方だったので、しっかり自然や生態系とのつながりを踏まえた内容になった。また、大人向けのワークショップのノウハウも得ることができた。参加者から「大人対象ということで心おきなく時間が過ごせました。今後も大人対象でのワークショップを楽しみにしています！自分も保全等に何ができるのか考える機会となります。」や「皆さんフレンドリーで楽しく過ごせました。このように大人のワークショップがあると良いですね。お弁当が素敵で心がもっていて美味しかったです。」などの感想があり、大人向けの体験活動のニーズがあることも把握でき、今後に生かせる多くのノウハウや知見が得られた。			「1年間の目標に対する達成状況（まとめ）」でも述べたように、参加者は体験の前後で、里山や市貝町、サシバの里自然学校への関心、同校で開催される体験活動や里山管理活動への参加意欲が高まったことが分かった。 一方で、道の駅「サシバの里いちかい」での購買意欲は余り高まらなかった。このプロジェクトの達成目標として、「（1）市貝町や里山への関心度、（2）町の物産の購入意欲、（3）里山整備意欲が2段階高まる」ことを目標としていたことから（1）と（3）は達成できたが、（2）については十分達成できなかった。これについては、プログラムの内容が道の駅やそこで売られている物産との関連性が薄く、体験を通じて「市貝町産の物産を購入することが、里山の景観や生態系を守ることににつながる」ことへの気づきに繋がらなかったためと考えられる。今後新たなプログラムを企画・実施する際には、この点について十分工夫・配慮することが求められる。	
■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）				
この1年間の活動を通じて	大人向けの体験活動の実施とそのノウハウの取得、参加者の市貝町や里山への関心、そこでの体験や管理活動へ参加意欲の向上		を達成しました。	
■ 受益者の具体的な変化（自由記入）				
大人向けの自然体験活動のニーズが一定程度あることがわかり、またそれに必要な機材なども購入できたことから、今後も定期的に大人向けのイベントを開催することとなった。				